

令和 7 年度(2025 年度)第 1 回 八王子市社会福祉協議会 地域福祉専門分科会 議事録		
日時・会場		令和 7 年(2025 年)5 月 19 日(月)10:00~12:00 八王子市役所 議会棟第三・第四委員会室
出席者	委 員	黒岩 亮子 (日本女子大学) 島崎 誠 (八王子市民生委員児童委員協議会) 石井 修一 (八王子市町会自治会連合会) 上村 晃一 (市民委員) 齋藤 健 (八王子市民活動協議会) 下島 宏文 (市民委員) 西田 佳子 (八王子市社会福祉協議会) 丸山 颯姫 (市民委員) 山下 晋矢 (八王子市医師会)
	市職員	菅野 匡彦 (福祉部長) 小池 明子 (福祉部 生活福祉担当部長) 元木 博 (福祉政策課長) 白石 利和 (高齢者いきいき課長) 櫻田 ひかり(障害者福祉課長) 小俣 英一 (生活自立支援課長) 中山 あずさ(健康医療政策課長) 志村 慶太 (健康づくり推進課長) 原 清 (子どものしあわせ課長) 丸山 悟 (生活福祉総務課長) 滝口 敦 (生活福祉地区第一課長) 小林 友行 (生活福祉地区第二課長)
欠席委員		室田 信一 (東京都立大学)
次 第		1 開会 2 報告 (1)福祉部職員による不適切発言事案の再発防止に向けた取組の改善報告について (2)第 4 期八王子市地域福祉計画令和 6 年度の取組実績について 3 議題 (1)第 4 期八王子市地域福祉計画推進の方向性について 4 その他 5 閉会
公開・非公開の別		公開
傍聴人の数		なし
資料		・ 第 4 期八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿(R7.4.1 時点) ・ 令和 7 年度(2025 年度)地域福祉専門分科会年間予定表 ・ 【資料 1】福祉部職員による不適切発言事案の再発防止に向けた取組の改善報告について ・ 【資料 2-1】第 4 期八王子市地域福祉計画令和 6 年度の取組実績について ・ 【資料 2-2】第 4 期地域福祉計画令和 6 年度実績一覧【とりまとめ】実績報告調査票 ・ 【資料 3】第 4 期八王子市地域福祉計画推進の方向性について

	・【資料3参考】社会・援護局関係主幹課長会議資料
会議の要旨	
	【1 開会】 <部長、管理職より挨拶> <黒岩会長より挨拶> 【2 報告】 (1)福祉部職員による不適切発言事案の再発防止に向けた取組の改善報告について <【資料1】に沿って生活福祉地区第一課 滝口課長から説明> 質疑応答 上村委員 ケースワーカー業務に苦勞も多いと推察する。【資料1】のP4業務支援ツールについて詳しく聞きたい。 また、八王子市では新人職員はどのような業務配置をしているのか。 小林課長 業務支援ツールは、システム内で案件ごとの対応や回答を検索できるシステムである。新人職員を中心に活用しているが、制度が変わるたびに書き換えていく必要があり、都度柔軟な対応をしている。 新人職員の配置については、困難なケースには対応させないようにしている。 黒岩会長 職員1人当たりでどの程度担当世帯数があるか伺いたい。 滝口課長 職員は令和3年度が87人、令和6年度は92人であったが、職員1人当たりの担当する世帯数は、令和3年度が86.9世帯に対し、令和6年度は91.7世帯と増加している。実際は、産休や育休などもあることから1人当たり約100世帯である。 山下委員 【資料1】P3の「職場内でフォローしあえる環境になっているか」の項目について、令和5年度と令和6年度を比較し、変化がないように思われる。 滝口課長 このアンケート結果は課題として認識している。一方、このアンケートは他ケースワーク業務を行っている所管からの回答も含まれるため、生活福祉のみであれば、回答に一定の成果を感じている。引き続き、風通しの良い職場環境の整備について取り組んでいく。 辻野主査 (2)第4期八王子市地域福祉計画令和6年度の実績について <【資料2-1】に沿って福祉政策課 辻野主査から説明> 質疑応答 島崎委員 【資料2-1】スライド5のはちまるサポーター登録者数に関して中心部(由井、台町、長房、加佳)の登録が少ないが、要因はあるのか。 西田委員 はちまるサポーター登録説明会の開催状況に地域差があることが原因と考える。引き続き拡充に向けて取り組む。

島崎委員	はちまるサポーターの働きについて、見える成果はあるのか。
西田委員	はちまるサポーターから具体的なつながりが数件あった。また、特に高齢の気になる世帯に対しては、情報を寄せてもらっている。居場所運営に協力していただき、地域活動への参加を進めている。
上村委員	はちまるサポーターの活動内容は。個人情報の取り扱いなどはどのように管理しているのか。
西田委員	登録時に個人情報の取り扱いに関する誓約書を提出してもらっている。また、はちまるサポーターははちまるサポートに情報をつなぐ「つながり手」の役割として活動しており、その後の支援ケースに係る個人情報や経過を伝えることは行っていない。
上村委員	地域に住んでいると、相談事は基本的に地域包括支援センターへつなげてしまうことが多い。地域包括支援センターとの連携はどのような状況であるのか。
西田委員	基本的に 65 歳以上の方に係る相談が来た場合は、地域包括支援センターへつなぎ、8050 問題等複合化した課題の場合は必要に応じ連携している。
元木課長	包括の認知度は 2023 年度 36.8%となっている。
石井委員	【資料 2-1】スライド 11 の相談先実績について、令和 5 年度と比較し、令和 6 年度の相談件数が減少している。相談機能の強化ということだが、相談件数が少なくなった方がよいのか。
辻野主査	はちまるサポート長房の相談件数の減少要因は、一時移転に伴い、団地の方が気軽に来られなくなったのではないかと考える。相談機能の強化については、件数よりも相談の質の向上を目指している。
石井委員	中心市街地の相談件数についてはどうか。
辻野主査	はちまるサポート台町が八王子駅南口総合事務所に移転したことから、令和 7 年度は相談件数が増加すると考えている。
石井委員	民生委員との連携についてはどうか。
辻野主査	モバイル PC の配布により、情報連携がスムーズになったと認識している。しかし、成り手不足の解消には至っておらず、欠員が出る可能性がある。
島崎委員	今年は一斉改選の年だが、後任を見つけるのが困難である。モバイル PC に関しては、活動報告、通知などが紙からデータになったため、紙の削減にはつながっている。
黒岩会長	民生委員とはちまるサポーターとの関係はあるのか。
島崎委員	民生委員とはちまるサポーターの面識はほとんどない。地域包括支援センター

	は民生委員の地区定例会に参加しているため、職員とは顔見知りである。しかし、はちまるサポートはCSWの人数が少ないため、地域包括支援センターと同様に毎月参加することは困難と思う。
西田委員	アウトリーチ支援に今後力を入れていきたい。
上村委員	市内に13か所あるはちまるサポートの取組みは画期的である。市内2か所あるはちまるファームについて、メリット・デメリットがあれば教えていただきたい。
西田委員	はちまるサポートのCSWは福祉の専門職のため、農業の専門知識がない点が課題である。小比企町は土地を貸していただいた方から、技術も併せてご教示頂いて進めている。一方、南陽台町は、自分たちで進めていく必要があり、技術的な部分と担い手不足が課題である。
黒岩会長	医療とのつながりについて山下委員はいかがか。
山下委員	【資料2-2】スライド8について、専門職との連携によるアウトリーチ支援体制の強化に関して、全国的に手探り状態である。その中で、課題である高齢者福祉、障害者福祉を八王子市で補助できれば良い。また、人口減少していく中で、高齢化施設を今後どう転換していくのかを考える必要がある。
辻野主査	【3 議題】 (1)第4期地域福祉計画推進の方向性について <【資料3】「地域福祉計画推進の方向性について」に沿って説明(福祉政策課 辻野主査)>
下島委員	質疑応答 自分自身でニーズを把握していない人に対し、どのようにアプローチしていくのが困難である。薬局ができることとして、福祉のニーズの掘り下げは困難であるが、周知や広報はできると思う。しかし、周知や広報をどのようにビジネスにしていくのが課題である。個人的には、病気は人生コストがかかるということを周知し、予防に繋げていきたい。
黒岩会長	繋がらないとこのようなデメリットがあるということを伝えたい。
丸山委員	学生の立場として、大学生にも孤独・孤立の課題がある。はちココの制度は非常に良いと思い、大学のHPの掲載やPOPの設置を行った。一方、これを見る人は繋がりがあがる人で、本当に繋がらなければならない人には繋がらない。干渉しすぎること難しいが、どのように繋がりを持つのが重要になる。 大学内の繋がりだけではなく、地域の方とのつながりもボランティアサークルを通じてとても重要であると感じた。
上村委員	コロナ禍出の生活資金の貸付について、記事で6割が返済していないと見たが、八王子市の現状はどうか。
小俣課長	貸付の記事は承知している。市では、生活困窮窓口を設けているが、社協の貸

西田委員	付に案内することがある。返済についても 6 割が返済されておらず、生活困窮窓口でも解決策を案内しているところである。 社協は返済についても見守り支援を行っており、件数が増加傾向である。 【4 その他】 次回は、7/28 14時～16時 開催予定
議事録署名人	黒岩 亮子